

科目・コース（ユニット）名：経済学入門【医学1】

英語名称：Introduction to Political Economy

【担当責任者】後藤 宣代

【連絡先】教育研修支援課 医学部教務係

【開講年次】 1 年 【学期】 前期 【必修／選択】 選択必修

【授業形態】講義・グループワーク・受講生による自主的リサーチと成果発表

【概要】

経済学は、資本主義の成立とともに生まれた近代社会科学で、この学問の性格は、しばしば「社会の解剖学」とも言われています。本年は、経済学の父アダム・スミスの主著『諸国民の富（国富論）』が刊行されて 250 年の記念年にあたります。

医学が「人体の解剖図」を描くように、経済学は「社会の解剖図」を描きながら、問題を発見・診断し、カルテ（問題の立て方とその解決策）を考える学問です。激動の 21 世紀に生きるみなさんが、経済学の基本的な考え方（理論、歴史、政策）を深く学び、「21 世紀の教養」を身につけます。

<2026 年度の講義特色>

- ① アダム・スミス『諸国民の富』刊行 250 年、経済学はどのように展開し、みなさんの生活に影響を及ぼすようになっているのでしょうか。昨今の物価高で、みなさん「暮らしと経済」に大変敏感になっていることでしょう。あらためて経済学の出発点から現状にいたるまで概観することとします。
- ② 経済学の対象は、19 世紀の産業革命以来、モノの生産と消費が中心でした。いまや情報・ネット革命が進行し、モノの比重そのものが下がっています。21 世紀の現在は、ネット空間では知識や情報、リアル空間では医療・福祉、教育、文化が経済の中心になってきています。ここ数年、デジタル資本主義の登場は、ネット空間とリアル空間の在り方を大きく変容させてきています。
- ③ そこで、本年は、経済理論の歴史（経済学史）、現状、そして医療への展開・応用という三編成で講義を進めていきます。

【学習目標】

- ① 世界の動きや人々の暮らしが、理解できるようになる。
- ② 現代社会の病理現象（格差、貧困、気候変動など）について、論理的、批判的に解説でき、しっかりとした見識を持てる。
- ③ さまざまな労働のなかで、医療従事者の労働はどんな特徴をもつのか、例えば製造業やサービス業などと比較して、何が同じで何が違うのか、説明できる。
- ④ 自己の意見を他者に伝え、他者の意見を理解でき、討論することができる。

⑤ 全体として共感能力が高まり、コミュニケーション能力が発揮できる。

【教科書】 *受講生全員で読み合わせ、討論します。

此本臣吾監修、森健・日戸浩之著『デジタル資本主義』東洋経済新報社、2018年。

【参考書】

・ヤニス・バルファキス『テクノ封建制—デジタル空間の領主たちが私たち農奴を支配する
とんでもなく醜くて、不公平な経済の話—』（斎藤幸平解説、関美和訳）集英社。

・宇沢弘文『社会的共通資本』岩波新書。

・内田聖子『デジタル・デモクラシー—ビッグ・テックを包囲するグローバル市民社』地平社。

【成績評価方法】

講義の出席、討論の参加と発表、そして最終レポートから、総合的に判定します。

1 出席：

規定により、講義の2／3以上を要します。

2 討論と発表：

受講生をグループに分け、そこでの討論、そのあとグループ別発表と質疑応答です。

グループの分け方は、受講生自身が決めます。その「決め方を決める」のも受講生自身です。自主的な学びの集団を自分たちで作り、討論しながら認識を深めていきます。

3 最終レポートの評価基準：

知識・暗記ではなく、社会認識の深まり、経済学的思考力です。

レポートの書き方と評価については、講義の最終回に講義担当者が説明します。受講生は自分の学習成果をレポートとして作成し、提出します。

【学習上の注意事項】

- ① 将来、医療従事者になったとき、世界のあり方について、説明できる。例えば、「国境なき医師団」のメンバーになったとき、地球的規模の問題（環境、貧困、人権、倫理など）について、さまざまな国・地域の、多様な人たちと、対等平等に議論できる知見と能力を身につけましょう。
- ② 他者の意見や患者さんの声に耳を傾けられるような、共感能力・コミュニケーション力が身につけましょう。
- ③ 現代社会の様々な事件や現象について、「他人事」ではなく、「自分事」・「我が事」として受け止め、思考する人間になりましょう。

【授業スケジュール】

場所＜4号館第5講義室＞

	授業実施日	時 限	担当教員	授業内容	キーワード
1	4月16日 (木)	3	後藤宣代	序 経済学への誘い・前提 ①いま、経済学が面白い	・ 担当者の紹介 ・ 講義概要の説明 ・ テキストの紹介 ・ 成績評価方法の説明 ・ 新聞記事の読み合わせ
2	4月23日 (木)	3	後藤宣代	経済学への誘い・前提 ②受講生の自己紹介： 関心があること、学んでみたいこと、講義への期待	・ 医療と経済の関係 20世紀まで（製造業中心） 21世紀（非製造業・デジタル、ケア中心）
3	4月30日 (木)	3	後藤宣代	経済学への誘い・前提 ③グループづくり	・ 決め方を決める ・ 報告分担を決める
4	5月7日(木)	3	後藤宣代	テキストの章タイトル ＜資本主義に何が起きているのか＞ 1 「停滞」する世界経済	・ デジタルが引き起こしているもの
5	5月14日 (木)	3	後藤宣代	2 資本主義 対 民主主義	・ 産業資本 ・ デジタル資本
6	5月21日 (木)	3	後藤宣代	＜デジタル資本主義の登場＞ 3 捉えきれない消費者余剰の増大	・ 豊富ななかの貧困 ・ GDP ・ ウェルビーイング
7	5月28日 (木)	3	後藤宣代	4 所有からアクセス へーシェアリング・エコノミーの登場	・ 市場 vs 国家を超えて ・ 協働型エコノミーと消費
8	6月4日 (木)	3	後藤宣代	5 デジタルで変化する経済の課題	・ 情報共有
9	6月11日 (木)	3	後藤宣代	6 私有財から公共財・準公共財へ	・ コモンズ、社会的共通資本 ・ デジタル・コモンズの登場
10	6月25日 (木)	2	後藤宣代	7 デジタル資本主義の第3フェーズへの道	・ 労働社会から活動社会へ ・ 労働生産性から知識生産性へ

1 1	6 月 25 日 (木)	3	後藤宣代	<デジタル資本主義の 多様性とその未来> 8 デジタルを世界史 のなかに位置づける	・封建制 ・資本制：機械制大工業段階 ：ネット・デジタル段階
1 2	7 月 2 日 (木)	2	後藤宣代	9 デジタル社会の多 様性	・デジタル資本と AI ・人間の代替、補完、あるいは強化
1 3	7 月 2 日 (木)	3	後藤宣代	10 資本主義のゆくえ	・デジタル資本時代の医療と医師 ・社会保障 ・人間の主観世界の重要性
1 4	7 月 9 日 (木)	2	後藤宣代	テキストから展望する 医療制度：アメリカと イギリスを例に	英：ベバリッジ報告（福祉国家）と NHS 米：高度な医学、医師養成システ ム、医師免許更新制度と公的医療 保険の欠如、医療格差
1 5	7 月 9 日 (木)	3	後藤宣代	総括と展望	15 回の講義まとめ 最終レポート作成の説明

【担当教員】

教員指名	所属
後藤宣代	